

1. 調査目的等

小・義務教育学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証を行うことを通して、学力向上に関する取組の改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

標準スコア(国語53.4、算数57.5)から、1ポイントアップをめざす。

3. 指標にむけての取組

○熊小授業のグランドデザインの推進(めあて・見通し・一人学び・友達学び・振り返り)

・単元テスト80点の通過率100%

○国語の一人学び(シラバス、ワークシート、ガイドを活用した「読み、考え、書く」力の育成)

○補充学習(朝活・昼チャレンジ・補充タイム)の全員体制での計画的実施

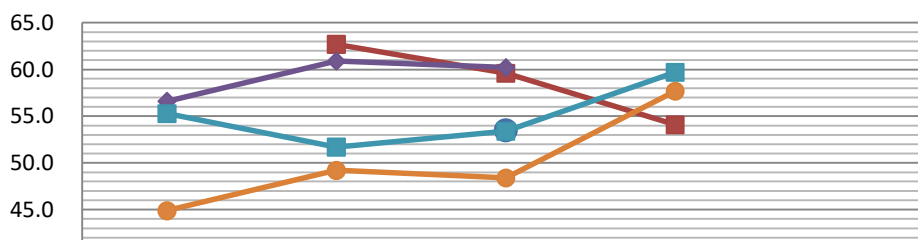
4. 調査結果

※学校平均(国語・算数)4年間の推移

(標準スコア:全国値の正答率を50とした時の換算値)

年度	3年度	4年度	5年度	6年度	
本校(A)	54.9	57.0	55.4	55.4	
嘉麻市(B)	47.0	47.2	48.5	49.8	
(A)-(B)	7.9	9.8	6.9	5.6	0.0
全国値との差 (A)-(50)	4.9	7.0	5.4	5.4	-50.0

各学年の標準スコアの推移



	3年度実施	4年度実施	5年度実施	6年度実施	7年度実施
6年度1年生			53.5		
6年度2年生		62.7	59.6	54.1	
6年度3年生					
6年度4年生	56.6	60.9	60.2		
6年度5年生	55.3	51.7	53.4	59.7	
6年度6年生	44.9	49.2	48.4	57.7	

5. 各学校における分析

・目標とする成果指標

算数は57.5ポイント、国語は53.4ポイントであった。算数については目標を達成することができたが、国語については達成できなかった。

【国語】

- ・2年生については、「読むこと」の領域が課題となっており、漢字等の語彙力を豊かにし、読みの力に生かす指導が必要である。
- ・3年生については、「読むこと」の領域において、読み取りから、自分の考えを書くことに課題があり、書く活動を重点に指導をする必要である。

【算数】

- ・全領域よくできてはいるが、表現(自分の考えを書く)に課題も見られた。

6. 各学校における今後の取組

【学び直しの徹底】

- ・授業における練習問題や宿題について、確実な見取りと間違った箇所の習熟を図る。単元テストは80点を目標に、到達できない場合は再テストにより、学習した内容が確実に定着できるようにする。

【読解力の育成】

- ・文章問題の読み取り指導を行う補充の時間を位置付け、読み取りの方法を学ぶとともに、日頃の宿題において読解問題に取り組むことにより、読解力が高まるようにする。

【書く活動の充実】

- ・国語においては、読み取ったことをもとに自分の考えを書くこと。算数については、立式の根拠を文章で説明する等、表現する力を育成できるように指導する。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎各学校における取組を機能化し、学力向上を図ることができるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行い、周知徹底を図る。

◆校内における学力向上検証委員会において単元テスト(全単元の80%において目標得点を達成できた児童が学級の80%以上になることを目指す)や各学力向上の取組について検証し、授業づくりや学力向上の取組の更なる改善を図る。

◆学習評価からの授業づくり、書く活動の設定、ICTの活用という視点から授業改善を図る。そのために、校内研修等に指導主事を派遣し、具体的な指導助言や支援を行う。

◆小中一貫教育に基づき、組織的・計画的に内容の設定し、個に応じた課題の提示(AIDリルの活用等)を図ることにより、家庭学習の習慣化及び充実を図る。